

「それでは如何に生きるべきか①」

ローマ 12:1

Ⅰ. 霊的な礼拝とは何か

「霊的」―元々「注意深く考え抜かれた」「思慮深い」という意味がある。
そこから「理に適った」とか「理性的」という意味を持つ言葉として使われていた。
「礼拝」―「奉仕」とも訳せる言葉。元々は専門用語。祭司に関して特別に使われる言葉。

民数記 16:3

「彼らは集まって、モーセとアロンとに逆らい、彼らに言った。『あなたがたは分を越えている。全会衆残らず聖なるものであって、主がそのうちにおられるのに、なぜ、あなたがたは、主の集会の上に立つのか。』」

民数記 16:20.21

「主はモーセとアロンに告げて仰られた。
『あなたがたはこの会衆から離れよ。わたしはこの者どもをたちどころに絶滅してしまうから。』」

民数記 16:26

「そして会衆に告げて言った。『さあ、この悪者どもの天幕から離れ、彼らのものには何もさわ
るな。彼らのすべての罪のために、あなたがたが滅ぼし尽くされるといけないから。』」

民数記 16:31~35

「モーセがこれらのことばをみな言い終わるや、彼らの下の地面が割れた。
地はその口をあけて、彼らとその家族、またコラに属するすべての者と、すべての持ち物とをのみ
こんだ。

彼らとすべて彼らに属する者は、生きながら、よみに下り、地は彼らを包んでしまい、彼らは集
会の中から滅び去った。

このとき、彼らの回りにいたイスラエル人はみな、彼らの叫び声を聞いて逃げた。『地が私たち
をも、のみこんでしまうかもしれない』と思ったからである。

また、主のところから火が出て、香をささげていた二百五十人を焼き尽くした。」

Ⅰ ペテロ 2:5

「あなたがたも……、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえ
をささげなさい。」

Ⅰ ペテロ 2:9.10

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。
それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばら
しいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。

あなたがたは、以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない
者であったのに、今はあわれみを受けた者です。」

Ⅱ. 何故、霊的礼拝を行うのか（「そういうわけで」「ですから」とは何を指すのか）

エペソ 2:4

「しかし、あわれみ豊かな神は、」

エペソ 2:5

「あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。」

エペソ 2:7

「それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜る慈愛によって明らかに示しになるためでした。」

「いつくしみ」一神から生じる全ての事をいう。神の命令、律法、主権・支配など全てを含む。
神そのものが「いつくしみ」

「めぐみ」一受けるに値しない者に与えられる神からの賜物（プレゼント）

「あわれみ」一哀れな者に与えられる神からの恵み

エペソ 2:7 直訳

「キリスト・イエスの内にある私たちに対する神の慈しみの、その内にある神の恵みの、その並外れて優れた豊かさ」

III. 霊的礼拝とは、どのように献げるのか（私たちは何をもって神を礼拝するのか）

「ささげなさい」－「祭司が祭壇に供え物を置く行為を指す」（祭司に関して使われる専門用語）

コロサイ 2:8

「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。」

ローマ 6:13

「また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」

ローマ 6:16

「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。」

ローマ 6:19

「あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。」

ローマ書 15:16

「私は神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によって聖なるものとされた、神に受け入れられる供え物とするためです。」

ローマ 15:18

「私は、キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。」

ローマ 6:16

「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。」

ローマ 6:12

「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。

また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」

ローマ 6:10.11

「なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。」

ローマ 8:11

「もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。」

ピリピ 3:8

「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあぐたと思っています。」